

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾

専門学校 麻生リハビリテーション大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -
基準 1	- 6 -
基準 2	- 7 -
基準 3	- 9 -
基準 4	- 11 -
基準 5	- 12 -
基準 6	- 13 -
基準 7	- 14 -
基準 8	- 15 -
基準 9	- 16 -
基準 10	- 17 -
基準 11	- 18 -
基準 12	- 19 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校麻生リハビリテーション大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
業界関係者	井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	出席
職能団体	黒木 勝仁	公益社団法人福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	出席
職能団体	椛 史人	一般社団法人福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	出席
職能団体	久保田 勝徳	公益社団法人福岡県理学療法士会 理事(桜十字福岡病院)	出席
高等学校	杉野 晴一	福岡県立筑豊高等学校 校長	出席
地域住民	小波 昌之	地域住民	出席
卒業生	西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生 (株式会社麻生 飯塚病院)	出席
保護者	中村 太	作業療法学科保護者	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2022年7月1日（金）16：00 ～ 17：00

場 所：専門学校麻生リハビリテーション大学校

（※一部参加者はオンラインで出席）

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2021年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- S：達成度がきわめて高い
- A：ほぼ達成している
- B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）
- C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

- (1) 教育目標、育成人材像、行動指針および 3 つのポリシー（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）の周知徹底と学科毎の育成人材像の策定を目指す。
- (2) 育成人材像、行動指針を実現するために、2020 年度カリキュラム改訂に対応し、かつ各学科の特色を生かしたカリキュラムの提供を行う。
- (3) 基礎科目から応用科目へ発展するように診療参加型実習に対応した講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。
- (4) リメディアル教育を充実させる。

【取組み状況ならびに成果と課題】

- (1) 教育目標、育成人材像および 3 つのポリシー（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）はホームページ上で公開している。今後も教職員、講師会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等でも周知を進めていく。
- (2) 作業療法及び言語聴覚の両学科では診療参加型実習への変更を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け十分実施できなかった。昨年に引き続き、臨床教育施設および臨床実習指導者へ診療参加型実習運用への理解と協力を求める。
- (3) ベネッセグループの入学前教育プログラムを導入し、リメディアル教育の充実を図っている。引き続きリメディアル教育の効果を検証していく。

【委員の方からのご意見】

- ・特になし。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

教育理念、目的、人材育成像、ディプロマポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) を定め、学生便覧に掲載するとともに、学生・教職員へ周知している。またホームページで情報公開を行っている。また、専任教員担当科目についてコマシラバスを作成した。

【課題と今後の取組み】

・課題

1. 各学科の3つのポリシーに基づく入学者選抜及び体系的で組織的な教育を実施するために継続して見直しを行う。
2. 教育目的・育成人材像は、学校として明文化されているが、学科単位では明文化されていない。

・今後の取組み

1. 学科毎の教育目標や育成人材像を明文化し、周知を図っていく。
2. コマシラバスの公開を検討する。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	C	C

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

今年度は責任者会議をはじめ全ての会議をオンラインで実施した。新型コロナウイルス感染対策等については、オンラインで情報共有したことで、各部署への指示も速やかに伝わり感染拡大を最小限に抑えることが出来た。また、在宅勤務時においても全教職員が学内サーバーの閲覧、更新を可能とする環境を整備し、業務や情報について円滑な運用がなされるようになっている。コンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。

【課題と今後の取組み】

・課題

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の度に事業計画、学事の変更を余儀なくされた。しかしながら、新入教職員への教育および全体会議をはじめ学校運営にかかる各種会議はオンライン実施が定着し、様々な情報の共有、学事変更への対応などはストレスなく実施できた。人事に関しては、現行制度と社会情勢の間に乖離が見られる部分が出てきている。

・今後の取組み

新型コロナウイルス感染拡大等の非常時の学校運営を想定した事業計画を策定し、オンラインによる定期的な会議の場を設け周知する体制を再構築していく。

共有すべき情報について教職員への周知ならびに活用しやすいように適宜データ、ファイル棚の整理を行う。

人事に関しては、2021 年度で、新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022 年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理、再構築を行っていく。

【委員の方からのご意見】

コロナ禍の新入教職員の育成は我々の学校運営に通じるものがある。

やりがいを持って働くことができる研修環境と OJT 等が求められる。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- ・教育の評価を適切に行っているか。
- ・成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- ・教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

各学科における教育目的、育成人材像達成に向けたカリキュラムの作成等は、学校の教育方針に従って、文部科学省および厚生労働省の各教育課程に対応した養成施設等指定規則（以下、「指定規則」という）を遵守して作成している。カリキュラムは各学科で策定し、責任者会議で採択されている。教育目的、育成人材像は明確に定めており、それを掲載した「学生便覧」を配布するとともに、新入生オリエンテーション時に説明し周知を図っている。

専任教員の担当科目についてはコマシラバスを作成した。非常勤講師のシラバスも作成されており学科毎に前期・後期、それぞれ学生および教員と共有し、ホームページでの公表も行っている。さらに、時代の変化に対応した内容となるように見直しも行っている。

【課題と今後の取り組み】

・課題

1. 非常勤講師が担当する科目のコマシラバスは作成できていない。
2. 学科において検討されたカリキュラムについての議事録が残されていない。
3. カリキュラムマップ（ツリー）が一部の学科の作成に留まっている。
4. 全ての学科において各教員への授業評価のフィードバックは行われているが、一部の学科においてその記録が取られていない。
5. 学会や研修への参加はあるものの、教職員の能力開発や資質向上に資する研修計画が不十分である。

・今後の取り組み

1. カリキュラム改訂3年目にあたり全ての学年においてカリキュラム内容が時代の変化に適応したものであるのかどうかの検証を実施する。
2. 非常勤講師が担当する科目のコマシラバス作成について今後検討する。
3. カリキュラム策定に関する議事録を残していく。
4. 各学科でディプロマポリシーと関連するカリキュラムマップ（ツリー）を策定し、ホームページに掲載する。
5. 授業評価アンケート結果を教員にフィードバックする時に、その記録を残しどのような改善が行われたか等の確認を行う仕組みを作る。

【委員の方からのご意見】

課題で挙げられている議事録や記録は事跡として課題解決へ向けての大きな根拠になると思う。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A	A
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	A	A
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	B	B
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

1 年次は、ベネッセグループの教育システムを導入し、入学前教育の徹底と授業スタート前に学力確認テストを実施するとともに、学習へのモチベーションを測った。そのデータをもとにそれぞれの学生の学力を把握し、個別指導を徹底した。また、後期に同様のテストを実施し、入学時のテスト結果等との比較検討を行い、検討結果をもとに個別指導をさらに徹底し学習支援を行った。学習状況の記録シートの導入や、すべての学年で学習習慣を定着させる取り組みを行った。

【課題と今後の取り組み】

- ・課題は特にない。
- ・今後の取り組み

各学年において、学生が自主的な学習に取り組めるように、e-ラーニングを本格的に導入し実践していく。また、最終学年の国家試験対策については、個別的、能動的、効率的な学習環境の提供を目的に、オンラインを併用したグループ学習およびチューター制度等を取り入れ、効果的な学習方法を構築していく。また、卒業生アンケートを継続していく。

【委員の方からのご意見】

対面型授業とオンライン授業が国家試験合格へどのように影響しているか分析し、コロナ禍であっても従来の合格率へ持っていくことができる授業改善が求められる。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-1-4	退学率の低減の取り組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い経済的困難に直面している学生および保護者の皆さまへ学校法人として校納金の納入期限延長、種々の生活支援制度を備えた。休校及び遠隔授業時においても、学生から日々の体調に関しインターネットを通じ報告を受け健康管理を行った。

就職活動への動機付けおよび入社後の離職防止を目的に、臨床実習前後に各領域の現職者による特別講義を実施した。講師には臨床のエピソードを交えて、自身のキャリア形成について、仕事のやりがい、醍醐味や苦勞などを語っていただいた。

【課題と今後の取組み】

・課題

就職活動において、事前の病院見学等の機会が減少し且つオンラインのみの就職活動が増えた。十分な企業研究も無く内定したケースもあり、入社後のミスマッチが懸念される。

・今後の取組み

学生の入学時の基礎学力、学習習慣と学習実態、モチベーション（進学意欲、学習・職業意識）について情報収集および分析を継続して行う。担任との面談状況、講義の中での確認テストなどの結果、学校生活の様子を統合した学生の修学状況に関する情報について共有する体制作りをする。

【委員の方からのご意見】

校納金の納入期限の延長や種々の生活支援制度等、学生がコロナ禍における家庭の減収で中途退学することがない対応をお願いしたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	A	A
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S	S

5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。
- ・教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

施設・設備については指定規則において必要な施設基準、備品が明確に定められており、当校は第三者評価においても満たしていると評価されている。教職員による機材・備品の棚卸しを年 1 回実施し、適宜修理補充している。図書についても同様に指定規則に基づき冊数、分野ごとの整備を行っており、学生が利用できる環境を整えている。また、図書に関しては蔵書のみではなく、医学文献配信サイト「メディカルオンライン」との契約により、在校生、教職員が医学文献の検索、全文閲覧、ダウンロードをできる環境を整えている。

学外の実習環境に関しては、指定規則に基づき、病院、福祉施設および学内で実習を行なっている。その時間は 1,000 時間を越えている。実習開始前に行う実習指導者会議は新型コロナウイルス感染拡大のため対面では実施できなかったが、電話等で教育目標、方法論の共有を図り、指導方法の統一化を図った。

学内外の安全対策に関しては、管轄官庁の指導に沿って防災・防犯設備の点検や避難経路の掲示等をしている。また、万一の事故に備えて、学生は全員学生災害傷害保険に加入している。安全管理マニュアルはファイリングし、事務所棚に保管しいつでも閲覧できるようにしている。

【課題と今後の取組み】

- ・課題は特になし
- ・今後の取組み
 1. リスク管理の面から設備、機材・備品のメンテナンスについて必要な対応をする。
 2. 有事の際に安全管理マニュアルに基づいた行動ができるように教職員に周知する。
 3. 指定規則改正に伴う実習施設および臨床実習指導者の要件を満たすよう対応する。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S

6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

新型コロナウイルス感染予防の為、緊急措置として選抜方法の一部変更を行った。「自宅でのオンライン受験型・課題提出型」とし、告知はホームページ及び文書にて行った。

オンラインによる筆記試験は、法人の業務推進グループと連携して実施し、Web 面接共に支障なく実施できた。

学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行っている。

【課題と今後の取組み】

・課題

インターネット環境等の無い一部の受験者は、在籍する高校において PC 室の貸し出し等ご協力を頂いた。

・今後の取組み

オンライン型入試の運用については、法人の業務推進グループ等と連携しながら更に円滑に運用できる体制を構築する。

引き続き、学生納付金等の妥当性を確認していく。

【委員の方からのご意見】

コロナ禍における適切な校納金や入学金の設定の継続をお願いしたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	A	A
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	A	A
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務諸表等にみる学校の財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。

監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われている。

財務情報は、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題と今後の取り組み】

- ・ 課題は特になし
- ・ 今後の取り組み

今後も予算決算管理及び昨年度対比による財務分析等の取り組みを継続的に行っていく。その取り組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

関係法令、専修学校設置基準、指定規則等を遵守し、適正に学校運営を行っている。今年度は指定規則改定に伴い、改定個所に照らし合わせたカリキュラムならびに教室、実習室および実習施設等を変更した。

【課題と今後の取組み】

・課題

1. 学内諸規程を教職員に周知徹底出来ていない。
2. 実習施設および臨床実習指導者の要件について情報共有と対応が十分でない施設が散見され、情報の周知と指導者要件となる厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会の受講を勧めていく。

・今後の取組み

学内諸規程に基づいた危機管理を実現するためにも、年初の全体会議で関連規程の読み合わせ等を行い、学内規程に関する意識を高める。

【委員の方からのご意見】

コンプライアンスあつての円滑な学校経営になるかと思えます。課題解決への取組みを期待している。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A	A

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。
 また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価の必要性を全教職員に伝え、評価結果を全教職員で共有する機会を設けている。毎年定期的に自己点検・評価を行ない、改善計画を作成し、課題解決に取り組んでいる。

さらに外部有識者を交えた教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を設置し、教育内容等の改善を行うとともに学校関係者評価を実施し、教育の質を向上させる取組みを行っている。自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページ上で公表することで社会に対する説明責任を果たしている。改善状況については、内部監査にて検証している。

今年度、三学科五課程について一般社団法人リハビリテーション学校評価機構の評価認定審査を受審した。今年度、教職員向けに自己点検・評価委員による自己点検・評価活動に関するレクチャーを実施した。

【課題と今後の取組み】

- ・課題は特になし
- ・今後の取組み

教職員向けに自己点検・評価委員による自己点検・評価活動に関するレクチャーを適宜実施する。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

教育ノウハウを活用した職業訓練や緊急雇用対策事業、NPO 法人・ボランティア団体等への支援や教職員の参加奨励、国内外からの教育施設見学受け入れなど、積極的に社会貢献活動を進めている。また、教職員においては企業・地域・行政等の依頼を受け、出張講義・指導を行なっている。学生のボランティア活動は今年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施していない。

【課題と今後の取組み】

・課題

1. 学生、教員ともにボランティア活動への参加は自主的、自己研鑽的な活動として推奨しており、多くの活動実績はあるものの、計画的ではなく受身的な対応が多い。
2. ボランティア活動を行った場合に単位認定を行うことが可能な教科については、引き続き学内にて単位認定に関して検討する。

・今後の取組み

ボランティア活動おける感染対策や行動基準の策定が必要である。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A	A

基準 1 2 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

今年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握した。心配や不安を抱かせないよう、担当者と学生・保護者との間でしっかりとコミュニケーションを取るよう努めた。

また、各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者へ提供するよう努めた。

【課題と今後の取組み】

- ・課題は特になし
- ・今後の取組み

株式会社麻生キャリアサポートや語学学校とのアグリーメントに関して、内容の見直しや業務分担を明確化する。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	対象外	対象外
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	対象外	対象外
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上